



つながろう

# CO・OPアクション情報

2012年1月25日

第11号

## ◆震災を経験した者同士、 気持ちが通じ合う



みやぎ生協  
理事 大和 きよ子氏

今日はお天気に恵まれて、楽しく歩けました。神戸は初めてですが、街を見ていると「頑張ればまたきれいな街を取り戻せるんだ」という気持ちになります。その一方で、今の状態に戻すまでにかかった年数を聞くと「これから、まだまだ大変だな」という思いも湧きました。

震災を経験していて、ボランティアにも取り組んでいるという共通点のあるコープこうべの皆さんとは、話していても気持ちが通じあうような気がしました。石巻市の自宅は津波で流され、今は仮設住宅に住んでいます。悩みはありますが、家族は幸いにも無事でしたし、神戸の皆さんと出会い、優しくしてもらった上に、こうやって神戸に来ることもできたのだから幸せだなと思っています。

## 神戸と宮城つなぐ、鎮魂と再生への祈り

～コープこうべ、みやぎ生協組合員を招き、三宮を共に歩く～



東遊園地「1・17 希望の灯り」(神戸市・中央区)前にて。さまざまな思いをかみしめた。

阪神・淡路大震災から17年目を迎えた2012年1月17日、コープこうべは震災にまつわる記念碑などを巡る「震災モニュメントウォーク」に、東日本大震災以降、支援を通じて交流してきたみやぎ生協の組合員と役職員10人を招待しました。コープこうべの組合員と役職員43人を含めた計53人が参加、共に歩き、鎮魂と再生への祈りを捧げました。三宮駅前を午前9時過ぎに出発し、前半は「1・17 希望の灯り」がある東遊園地など、犠牲者の魂を鎮めるモニュメントを中心に回り、後半は防災機能を備えた公園や生協運動の父・賀川豊彦ゆかりの地などを巡る1時間45分ほどのウォークとなりました。「震災から10カ月たちましたが、すぐ先のことを考えれば不安は尽きないと思います。でも、もっと先、たとえば17年ぐらい先の未来のことなら考えることが希望の一つになるかもしれない。そうあってほしいという思いで今日のご案内しました」とガイド役のコープこうべの林律子さん。神戸の街は美しく整備されましたが、慰霊碑の前では、涙を流し手を合わせる人の姿も。震災の傷痕を忘れずに、前に進んできた神戸の姿は、宮城の方々にも何かを残したことでしょう。



交流会の様子。熱心に語り合う参加者たち。

### 午後は今後を語らう交流会開催

ウォーク終了後、コープこうべ生活文化センターへ移動し、鎮魂碑への献花を行ないました。その後の交流会では、みやぎ生協の参加者は、震災体験者であるコープこうべの皆さんに、具体的な質問を投げかけ、アドバイスを受けていました。また、コープこうべでは、全店舗で一斉黙とうやメモリアル展なども行なわれ、震災の犠牲者を追悼しました。

◆問題はまだまだ山積  
です

宮城県社会福祉協議会  
みやぎボランティア総合  
センター地域福祉課  
課長 高橋 賢一氏

日頃のご支援に感謝いたします。沿岸部のがれきは片づき始め、少しずつきれいになってきましたが、津波前のような生活に戻れる保障はありません。ひとまず県内の避難所は11年末にすべて閉鎖となりましたが、仮設住宅や県の借り上げ住宅、あるいは県外で生活されている方々は多く、その実態の正確な把握もこれからです。「仕事と生きがいがない」とおっしゃるのを聞くのは辛いですね。

震災以前から社協が状況を把握できている要援護者の方も大事ですし、ご高齢の健常者の支援をどう進めていくかも大きな課題です。「私は独りでがんばるから」とおっしゃる方にどこまで支援できるかです。皆さまには、現地に来ていただくこともありがたいのですが、まずは被災地のことを忘れないでいただきたいと思っています。これからもよろしく願い申し上げます。

## バスボランティアに多くの生協参加

茨城県生協連では、発災当初の福島県いわき市への支援をはじめ、継続した支援活動を行なっています。6月には茨城県生協連と茨城県社会福祉協議会が共催し、「宮城県災害ボランティアバス」を運行。以降、月に1度を基本に日帰りのバスボランティアを行ない、11年12月末までに会員生協、取引先など累計250人が参加しました。11月には、草が生え放題だったJR仙石線沿線の草刈りを行い、菜の花の種をまきました。12月に側溝の清掃ボランティアに行った際には、もう芽吹いていたそうです。

また、講演会「放射性物質とわたしたちの健康と暮らし」や「復興と災害ボランティア～新たなステージでの役割を考える～」を行なうなど、常に何が求められるかを敏感にキャッチしてリサーチをしながら活動を行なっています。

(<http://www.ibaraki-kenren.coop/>)



側溝の泥をかき出し、土のう袋につめる。  
3時間で、250袋分の泥を清掃。



12月には、すでに芽吹いていた菜の花。  
「春が楽しみ」とのことです。

## 「もう一度編んでみたい」編み物セットプレゼント



チャリティーで行なわれた、紙コップでの万華鏡作り。70人の子どもが参加。



全区域の区域委員（組合員）が生産者へ応援メッセージを送った。

エフコープでは、組合員と共に支援活動を継続しています。組合員クラブの一つ「エコサークルベスタ」は福岡市在住のアーティストらに「被災地の子どもたちを元気にするために」をテーマにバッグのデザインを依頼、展覧会を実施しています。福岡市での開催時には万華鏡作りも行ない、材料代の100円を支援募金として、バッグとともに福島県南相馬市の小学校へ贈りました。また、大里地区では手作りのモチーフによるマフラーやひざかけ、毛糸に編み棒をセットしたものなどを宮城県気仙沼市に贈りました。被災地では「今さら編み物なんて」と言われていた方が、マフラーを目にした途端に「もう一度孫のために編んでみよう」とうれしそうに毛糸を持ち帰られたそうです。この他にも、岩手や茨城のボランティア団体と連携して支援物資を贈る等、さまざまな活動を行なっています。  
(<http://www.fcoop.or.jp/index.html>)

## 【一言メッセージ】

- ・支援者の元気がなくなっています。楽しく、疲れず支援を続けていくことが大切です。(岩手・Iさん)
- ・家族の中でも、放射線に対する考え方が異なり、意見が対立します。(福島・Sさん)

◆リレー寄稿  
～継続的な支援に  
取り組みます



岩手県学校生活協同組合  
専務理事 高橋 克公氏

岩手の学校生協は、震災時に宮古市と久慈市の事業所が津波の被害にあいました。幸いにも建物は残ったので、内陸部の職員が被災事業所に出向いて、泥のかき出しや、がれきの運び出しの作業を続け、3月中に業務の再開ができました。

学校生協の被災地支援は、学校職場を中心に行ないました。3月15日から津波の被災地に入り、事業所や小中高の学校を回りますが、避難所となっている学校も多く、当面は倉庫に在庫のあった商品から提供し、被災現場の要求に応えながら、すべて、直接被災者に支援物資を配布してきました。また、年4回ある生協強化月間に実施された「購入額に応じた支援金を被災校に送る運動」では、総額300万円を津波被災校に直接贈ることができました。今後も支援金の継続的な取り組みと、仮設校舎への物資の支援等に取り組んでまいります。

## 復興祈念タオルを全国の生協が注文

東北サンネット事業連合（いわて生協・みやぎ生協・コープふくしま）では、12年3月8日から11日に、未来に向かう活力の象徴として「3・11 がんばろう震災復興セール」を計画、3月11日には3生協全店舗の先着4万4,000人に「復興祈念 つなごろう！東北の元気」タオルをプレゼントします。日本生協連では、サンネット事業連合のご理解の元に、セールで配布されるタオルと同じタオルの注文を全国に呼びかけ、35生協・連合会から、計8万4,000本の注文をいただきました。

タオルを2万枚注文したコープおおいたでは、タオルを2月27日から宅配のカタログへ掲載、店舗では3月7日から販売を予定しており、売り上げの一部は復興支援活動の資金にあてる予定とのことです。

タオルが、被災地の生協と、全国の生協をあらためて結びました。



タオルは、現地の復興を兼ね、仙台市内の工場で生産。  
※写真のタオルはイメージです。

### <ひと>

「リストと一致したときは、  
体が震えました」



みやぎ生協共済センター  
センター長 佐藤 淳氏

みやぎ生協では、震災で亡くなり、共済金を請求されていないと思われるCO・OP共済加入者に対し、仮設住宅や地域の民生委員への聞き込みなどから、親族を探し出して支払い手続きを取る活動を進めています。共済センター・センター長の佐藤淳さんも、ずっと「すべての加入者の方に共済金を受け取ってほしい」という思いで業務を続けていました。12月11日の夜、たまたまNHKの番組を見ていたところ、家族の中で唯一助かった小学校2年生の女の子の様子が放映されました。佐藤さんは、女の子が「以前住んでいた住所と父親の名前」に見覚えがあり、翌日データを確認したところ共済加入者と判明したのです。佐藤さんは「お名前と加入者リストが一致したときは、体が震えました」といいます。そして、何とか連絡を取ろうと再放送を録画し、それを手掛かりに転居先を確認。女の子と一緒に放映されていた祖父母の名前をNTTの電話番号案内に問い合わせするなどして連絡を取ることができました。12月26日には、支払いの手続きのために岩手県まで出向き、涙ながらに感謝されたそうです。

#### 【一言メッセージ】

- ・全国からの物資支援、ありがたいです。さらに申し上げますと、支援物資そのものも、被災地域で事業再開した商店に注文してほしいです。（岩手・oさん）

日本生協連HP「復興支援ポータルサイト」連動企画（奇数号掲載）

## フォトルポ 被災地は今

コープふくしま 渡邊洋子理事×山田省蔵カメラマン

※日本生協連HP「復興支援ポータルサイト」にご寄稿いただいた組合員理事と一緒に現地を歩き、「被災地」の今を写真でお伝えします。（取材日時：1月16・17日、場所：福島県新地町、相馬市、南相馬市）



©山田省蔵

今年1月15日に営業を再開したばかりである相馬市のイチゴ園にて。イチゴは、ビニールハウスの園内で、あたたかな日差しのもと、すくすくと成長中。

### 震災から10カ月たった、現在の相馬市



©山田省蔵

新地町役場展望室からは、色のない大地が見える。「津波で建物が流され、何もなくなっていました」（渡邊理事）。発災直後、役場には、全国の生協からの支援物資が多く届いた。



©山田省蔵

相馬港。出番の来ない船たちが並ぶ。「相馬といえば、海だったのですが、今は、海は見たくないです。湾の形がまったく変わってしまいました」（渡邊理事）

## 生協、人、絆

取材日、渡邊理事が南相馬市の組合員委員4人を集めてくれた。「4人こうして集まることができていいですね」と言うと、「あと渡邊さんもね!」との答え。困ったときに支えてくれる渡邊理事を、皆が信頼している。

「震災後、生協が青空市やるってテレビのテロップ見たときは、もううれしくて!」と委員の柴田さん。

この青空市で、渡邊理事は、委員たちと再会した。



渡邊理事、そして委員の4人が、「全国に伝えてほしい」と持ってきてくれた資料。「東京は、報道が少なくなっているでしょ」



福岡からの自衛隊が立てたメッセージ入りの日の丸。今はもうボロボロだが、多くの人の心のよりどころとなっている。

## 理解しようとしてください

「福島に現状に目を向け、理解しようとしてください。まだ、原発事故のことについて、頭の整理がついていません。東京の電気をつくっていたのに、東京では、がれきの受け入れも進んでいません。宅配の職員も今は少なくなっていました。早く元の福島に、戻りたいです」(渡邊理事)

正しく理解し、正しく怖がるために、生協では、「放射能の学習会」など、福島に住み続けるための企画を随時行なっています、と渡邊理事。

生協として何ができるか、理事として、どう地域に貢献できるのか。震災からの復興、放射能という問題に向き合う理事の苦悩は計り知れない。そんな中、模索しながら、できることを一つひとつ実行している理事の姿が印象的だった。



コープふくしま理事 渡邊 洋子さん

渡邊理事の寄稿文は、日本生協連HP「復興支援ポータルサイト」にて、ご覧いただけます (<http://shinsai.jccu.coop/contents/0011/>)。



(左上) : ここから先は、警戒区域。人影がまばら。「前はもっと少なかったんですよ」(渡邊理事)

(左下) : 相馬港の造船所。復興に向け、一步一步進んでいる。

(右) : 奥に見えるのは火力発電所。津波の被害を受けたが、電力不足に対応するため工事を急ぎ、12月末になんとか復旧した。

### ◆「あおばの恋 ラーメン」新発売



醤油味、みそ味の2種類で展開。

宮城県産小麦粉「あおばの恋」を使用した「あおばの恋ラーメン 2人前」が1月26日、サンネット事業連合全88店で販売されます。これは、県内の小麦生産者、麺加工業者を支えていくことを目的に開発され、麺の粘りと弾力性にすぐれた商品に仕上がりました。食のみやぎ復興ネットワーク参加の(株)だいたい久製麺が製造。110g×2個入り、248円での販売です。

### ◆1万人の笑顔、メッセージを届けよう!



「ほぺたん」モザイクアート。

コープネット事業連合は、東日本大震災の被災地に贈るため、1万人の笑顔の写真をメッセージとともに募集し、ブランドキャラクター「ほぺたん」のモザイクアートを作成しました。このアートはポスターになり、被災地の生協・生産者、メーカーに贈られています。1人1人の笑顔、メッセージ、アートは下記URLから、2月12日まで公開しています。

(<http://hopetan.pit.jp/pc/>)

### <復興関連情報一覧>

#### 【岩手県】

##### いわて生協

- 佐勇水産(石巻市)の「ほっけみりん漬け」をつくってみる会②を開催(1/26)
- 原発・エネルギー問題を考える学習会(1/25、2/17)
- 南昌荘「ひなまつり」被災者は入園料無料(2/8～3/4)
- 民謡、三味線のコンサート(2/11、山田町)

#### 【宮城県】

##### みやぎ生協

- 震災を乗り越えた「純米吟醸 勝山 3.11-KIZUNA-」を発売(1/19)
- 気仙沼市の離島・大島へ「全国灯油募金」の無償給油と保管ボックスを漁協協力により大型船で配送(1/21)
- 沿岸地域中心に37台のアクアクララ無料ウォーターサーバーを設置(3月末まで)
- 「あおばの恋」使用のラーメン販売開始(1/26、[左欄上記事参照](#))
- イベント車2台目導入(2/20)

##### 宮城県生協連

- 消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎ主催：「放射能汚染と食品の安全性を考えるフォーラム」(1/16)

#### 【福島県】

##### コープふくしま

- 実際の食事に含まれる放射性物質測定「陰膳方式」の説明会(郡山総合福祉センター、1/18)
- 「ワァ〜イワイ交流会」開催(1/26)
- 「ふれあいひろば」(南相馬市・さいたまコープ共催、1/14・1/21)
- 「みんなのふれあいひろば」(国見町・駅前応急仮設住宅談話室、1/27)

##### 福島県生協連

- 福島の子ども保養プロジェクト(毎週末実施)
- コープながの学習会(1/28)

#### 【茨城県生協連】

- 復興支援映画「エクレールお菓子放浪記」上映支援(2/14、2/21水戸、土浦)

#### 【パルシステム連合会】

- 会津若松市内の仮設住宅への買い物・雪かき支援(1/19、1/26)

### 支援金、機材をご提供いただけませんか。

みやぎ生協では、未だ復旧の途上にある生産者が、復興のスピードを上げることができるよう、生産手段を贈るための募金を全国に呼びかけています。

現在は、被害が大きかった「宮城県漁協志津川支所」に漁船・船外機・フォークリフト、そしてわかめの収穫用のコンテナ、また「JAいしのまき」に海水淡水化装置(地下水の塩分を淡水に替える装置)を贈るために、上記物品、支援金を緊急で募集しています。連絡先は、みやぎ生協 食のみやぎ復興ネットワーク事務局(022-772-6141) 藤田孝さんまで。

#### ◎生協の震災復興支援の取り組み情報、一言メッセージ募集!!

皆さまの地域での生協の復興支援に関する取り組み情報や、伝えたい一言メッセージをお寄せ下さい。情報提供用メールアドレス [action@coop-book.jp](mailto:action@coop-book.jp)



つなごろう CO・OP アクション情報  
(隔週発行・次回2月8日発行予定)

発行 日本生活協同組合連合会(会員支援本部出版部)  
〒150-8913 東京都渋谷区渋谷3-2-9-8 コーププラザ11F  
Tel: 03-5778-8183 / Fax: 03-5778-8051  
[action@coop-book.jp](mailto:action@coop-book.jp)



#### 【一言メッセージ】

- ・被災者の生活再建に向け、支援内容等、提起していただければありがたいです。(茨城・Kさん)
- ・仮設住宅では、隣近所に遠慮して、子どもを室内で思いっきり遊ばせることができません。(宮城・Iさん)